



るうてる



2020年
4月
No.868

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

説教 「聖鐘に導かれて」

日本福音ルーテル教会牧師 鈴木英夫

「あなたの御言葉は、わたしの道の光／わたしの歩みを照らす灯。」

(詩編119:105)



まことに小さく曖昧な国に、再び確かな主の御復活が告げられようとしている。イエス・キリストの十字架の出来事により人類は贖われるのだ。まことにありがたい。

我が国の復活祭はおおよそ、春、桜の頃となる。卒業や進学、就職や引退など人生節目の時、何かワクワクする季節…。新しい教科書を手にし、どんな師や友と出会うのか、期待と不安の中にいた記憶が甦ってくる。

で老先生が一枚の絵を掲げ、「ある部分が無かったら絵の命が失われるが、それは何か？」と質問された。：数人が答える、が正解は出ない。初対面の絵に私の思考は止まったまま?!すると先生が「これ・と夕暮れの地平線の小さな影を指して隠した。：「教会堂」だった。

やがてその絵が、平原を鳴り渡る鐘の音を合図に、農民が手を休め夕べの祈りを捧げる様子を描いたミレー作「晩鐘」だと知る。へー、そんな人たちがいるんだ、そんな国があるんだ。：と不思議に思ってた。：暗闇の中に福音の光が指し込み、希望の種が時かかれた瞬間だ。

に遭遇、人生を憂い、市川教会に出会う。T先生は私に話の熱心に耳を傾け、夜の聖研集会へ導いて下さった。ありがたかった。：やがて主日礼拝にも列席し、洗礼を賜るようになる。

教会には確かに「あの鐘」が備わっていた。礼拝前と聖餐(省く場合は主の祈り)の際に鳴らされる。時折、鐘打ちを託され、緊張しながら奉仕したことを忘れない。

「日本福音ルーテル教会宣教百年」の折、合志教会リニューアルに際し、大町教会に移築されていた日本宣教第一号教会堂(旧佐賀教会)の骨組みを再継承し、「創立記念会堂」を称することになった。が鐘樓に鐘がない。：すると、かつてフィンランド留学されたM先生の御尽力であらうか、シベリウスの国から新調の鐘が届く。鐘には詩編の一節が刻印されていた。

西条教会には、1962年にジョン・F・ケネディ米大統領から贈られた「愛の鐘」が備えられていた。由来はこうだ。ジョージ・オルソン宣教師を通じ、西条教会に鐘がないことを知った米国の14歳の少年が、「大統領に頼もう」とホワイトハウスに手紙を出した。「兄弟愛の証しとして贈りたい」という少年の思いに心を動かされた大統領は、退役駆逐艦の鐘を届けさせたという。それから半世紀、2013年、大統領の長女、キャロライン・ケネディー駐日米大使が教会を訪れ、亡き父所縁の鐘と対面された。教会・幼稚園の礼拝等で用いられ、日米友好と兄弟愛を証する鐘が西条盆地に鳴り響いている。



MILLET, Jean-Francois The Angelus 1859-60 Musée d'Orsay, Paris

30歳を過ぎた頃、友の自死

『VESATKAA HERALILE UUSI VIRSI』(ヘルレヤ、新しい歌を主に向かって歌え、詩149:1)。

聖書の時代、「鐘」はなかった。わずかに「しら」(I Cor 13:1)がみえる。教会に鐘を導入したのはノーラの聖パウリノ主教(354~431)だと言われる。6世紀、鐘はイタリアからフランスに広まり、ローマ教皇サビーニアヌス(在位604~606)が定時の礼拝や聖餐開始を告知するのに聖鐘の使用を公認したという。

初期の鐘は手ぶりで鳴らす小さなもの(nola)、大きな鐘(campana)が造られるようになるのは11~12世紀、現代のような鐘が普及するのは15世紀以降のことである。

中世の「聖なる天蓋」が解き放たれ、その後、教会は「世俗化」の中を漂っている。宗教に、理性や科学が対峙する社会が広がってきている。：しかし教会は、永く継承してきた伝統から安易に離れることには慎重でありたい。「聖鐘」をはじめ「所作(十字を切る等)」、「香」などの事柄は、神学的検証と共に、再考してゆくべき事柄ではないだろうか。

教会はイエス様の十字架の愛の出来事を、あまねく世界に宣べ伝える使命を委ねられ、2千年に渡り、担い、果たしてきた。その結果、今、私たちはここに立っている。

最後の一步に躊躇する兄弟よ、信仰の道に迷う姉妹よ、恐れるな！主の御言葉が私たちの歩みを照らし、やがてすべてを引き受けて下さるから。光の子よ、共に歩もう。(SDG)

「すべてのいのちを守るため— 教皇フランシスコ訪日講話集」

カトリック中央協議会 2020/1/25 発行
本体価格 1100円 (税込 1210円)



2019年11月23日から26日にかけての教皇フランシスコの日本司牧訪問中に行われた10の公式スピーチの他、詩人・批評家の若松英輔による特別寄稿を掲載。(カラー写真16頁)



伊藤亘奈

①初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった。

(ヨハネによる福音書1:1)

「命のことば」をテーマに「コラム」を担当させていただきました。伊藤亘奈と申します。よろしくお願ひします。

この春からしばらく、このコラムを担当させていただきます。伊藤亘奈と申します。よろしくお願ひします。

そうすると、あちらこちらにちりばめられた「命のことば」であるイエス様が、自分と共におられることを実感できるといふ、嬉しくなりました。そのように、自然の中や家族の中、色々な施設や病院で自分に語りかけられた「命のことば」を、これから皆さんと分かち合いたいと思っております。

富弘美術館開館30周年記念 花の詩画展 2020



2020年4月25日(土)~5月11日(月)
開場時間 午前10時~午後7時
(入場は午後6時30分まで)
会場 銀座教文館9F
ウエンライトホール
(東京都中央区銀座4-5-1)
入場料 一般:600円、小中学生:無料



議長室から 大塚 謙治

「十字架と復活のリアリティー」デイデイモのトマス

「デイデイモのトマス」。「デイデイモ」はあだ名で「双子」を意味しますが、誰と双子であつたかは不明です。聖書は私たちを映し出す鏡で、そこに自身の姿が映っていると感じることは少なくありません。特に十字架と復活の場

「デイデイモ」という名と共にその姿を印象深く伝えていきます。彼は「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」(ヨハネ20:25)と言ったことで「疑いのトマス」とも呼ば

れます。そのエビデンスを求める実証主義的な態度には私たちが自身の姿が重なりまなごしを思い出したのです(ルカ22:61-62)。そしてトマス、彼の名は共観福音書と使徒言行録の十二使徒リストにあります。第4福音書は

死をも恐れぬ確固とした信仰者」に造り変えたのです。遠藤周作は「復活は蘇生とは違ふ。復活は「事実」ではないとしても「魂の真実」だ。イエスは弟子たちの心の中に確かに復活したのだと言います(キリストの誕生)。

讃美歌と私たち



⑩「教会讃美歌」再考

小澤周平

(名古屋めぐみ教会牧師)

『教会讃美歌』の編纂過程は約十数年に渡るものでした。パソコンは普及してない時代です。手書きの楽譜(図)、英文タイプの議事録、巻末の細かい索引を眺めながら当時を想うと胸が熱くなります。ただ、寄り道が多い本連載は早くも第10回。編集委員の方々の後日談はまた別の機会に…。

先述の通り、歌集の編集は式文や教会暦等、ルーテ

ル教会の伝統的な礼拝形式に調和することを目指しました。一方、教会全体の動きに重ねて考察すると別の特徴も見えてきます。編集期間に当たる1960年代は、日本国内のルーテル教会同士の協力について、議論が深まった時期でもありました。実際1963年にJELCは教会合同を経験。従つてこの時代背景は歌集編纂にも影響したことでしよう。

『教会讃美歌』は、ルーテル独自の歌集であつても「孤立」させる歌集ではありませんでした。例えば「教会讃美歌」は、『讃美歌』(1954年版)の賛美歌の約3分の2がカバーされます。これは、共同体にお

て新しい歌集を導入するための数的な目安を満たします。あるいは、雑誌『礼拝と音楽』を読むと、『教会讃美歌』の働きは他教派の研究者からも高く評価されていることが分かります。

新式文導入実践報告

中島康文

(式文委員会 市川教会牧師)

〈市川教会での実践報告〉

2017年8月、市川教会では新式文ダイヤバージョンで礼拝を行いました。

(新式文の典礼曲の承認は、2018年5月の総会です。)

半年前での試用となります。それが可能となったのも、典礼曲編集の責任を主任牧師中島が担っていたことによりま

す。ダイヤバージョンを選んだのは、これまでの式文(以下現行式文)の編曲で

あり、馴染みがあるということが理由でした。実践ま

きを行うことは、月末に現行式文で行っていることもあつて困難がありました。

(これは司式者の意識の問題だとはいえませんが。)

実施してまず指摘されたことは、「手渡された式文が4ページのものがなので、ページを探すが大変だ」ということでした。急遽ハート

バージョンだけの式文を作成しましたが、編纂者であつたためにその変更が可能であつたことを鑑みると、バージョン毎の式文作成が必要であらうと思えます。それは

奏楽者についても同様で、「伴奏曲のみでは常に2冊必要となり、難しい」という指摘は真摯に受け止めなければならぬと感じています。

しかし、ほぼ1年を経過しようとする今、違和感なく礼拝を行っています。ひたすら受け止め、会衆が讃美をささげるものになつていくからだと実感できています。

〈信徒の感想から〉

新式文使用に向けて練習を開始し、実際に用いるようになり、ほぼ1年が経過しました。戸惑いや使いにくさが指摘されれば、その都度対応してききました。その上で、次のような感想が寄せられました。

「曲がきれいで、心地良く歌うことができる。長い曲(ダロリア)もあるが、慣れたらスムーズに歌うことができる。このまま用いてほ

しい。」と、肯定的な意見を多く伺いました。「歌賛美歌も含めて)が多いので、礼拝の後半は疲れてくる。終わりが今までと違うので、なんとなくバラバラな気持ちで終わつてしまふ。等、否定的ではありませんが、もう少し工夫・配慮が必要という意見もありました。

(ハートバージョンでの感想です。)

「他の3バージョンでは異なる感想もあるだろう」ことを、付記しておきます。

製本に関して、「礼拝で用いない箇所も多くて、まごついてしまふ」という意見も頂きました。これは「招き・主の祈り・祝福」に2パターンあることが原因でしょう。

その他、「冒頭、牧師先生が歌う部分が多いので、その日の先生の声の調子が分かる」という声もあり、ちよつと苦笑いでした。また市川教会はピアノで伴奏が行われるので、「悪い意味ではなくて)なんだか音楽会に来たみたい」と感想をいただいたこともありました。また司式者の動き、礼拝の流れなどについての意見は特にあるりませんでした。



司式者立位

エッセイ 揺れる教会 新型コロナウイルス 感染拡大の只中で

石居基夫
ルーテル学院大学学長



新型コロナウイルスの感染拡大を防止するという目的で、政府は要請という言葉を用いて、緩やかに、しかしはつきりと国民生活の中に自粛を求めている。それによって小・中・高の休校のみならず、幼稚園から大学に至るまで臨時の対応へと押し流されているかに見える。

九州地域教会員修会報告 「牧師として考える 今の韓国と日本」

毎年8月に、どの教会も「平和の祈り」を篤くします。2017年の宗教改革500年のテーマであった「争いから交わりへ」は、国家間の相互理解のずれをも含んだ、今なお続く人間の課題です。「罪」や「弱さ」の根深さを気づかせます。

教会でも週日の祈祷会や集会を取りやめたり、また聖餐式のあり方を工夫したり、これをやめたり、さらには主日礼拝そのものを休止する、教会施設を閉鎖する、など様々な対応が生まれてきている。

もちろんそうした潮流には懸念の声も多くある。そもそも、その判断が何に基づいているのかと問うものもあれば、教会の使命や本質論から礼拝の中止を嘆くものもある。

私自身もいろいろ思うことがある。けれども、自分の言葉は一度飲み込んだ。まず、聞かないといけない。どういう判断がなされたのか。どんな

対応を本当に教会として考えているのか。それぞれが声を上げ、議論する。いいことだと思う。皆が考えてみたらいい。

多様で良いと思うのだ。こうしなければならぬという外面的なことで縛ってみても何にもならない。むしろ、この時にこそ、御言葉にきき、祈り、共に信仰の共同体として生きるということを各教会で考えるべきだと思う。そうして、礼拝の意味も、聖餐の豊かさ

昨年7月、日本からの輸出をめぐって隣国・韓国との関係は極度に悪化しました。私たちは、小さな器でありながらも、特に「平和を作り出す者は幸いである」との言葉から勇気と力を与えられて、宣教と牧会に押し出され、市民としても歩んでいます。平和とかけ離れた状況に「憂い」を憶えたのは、どのキリスト者も同じだったのではないのでしょうか。これによって九州地域教会役員は、訪韓の趣旨・主題（牧師として考える今の韓国と日本）隣国との葛藤から対

に軽々に判断していません。揺れていると思う。そういう揺れや問い続ける心が大切なのだし、その中で、現代において自分たちが教会に集うこと、礼拝にあずかることの恵みを今一度確かめればよい。大事なことは、この時こそ、不安な信徒一人ひとりを孤立させないこと、そして牧師たちもそれぞれが考えて、手立てを作ること、支え合うことだと思ふ。

集う信徒の年齢層や地域性によっても異なる思いがそこに見出されるだろうし、悩みがあるのだ。牧師たちはそういう具体的なことを考えている。教団が号令をかけてしまつて、全国津々浦々

話を求めて〜。内容を地域内の牧師に提起しました。計画を練りに練り、今冬2月10日から2泊3日で、教区と協力のもとソウルにて教職退修会を行いました。15名の参加者でした。韓国の長老教会2教会を訪ね、2人の先生は趣旨に賛同し、講演をお引き受けくださいました。モクトン・ピョングアン教会主任牧師、チョンソンウク牧師、講演題「ユダヤ人、パレスチナ人、日本人、韓国人」、セムナン教会ナ・グネ牧師、講演題「牧師として見る日韓

関係」です。お二人の講演は、現在の日韓関係を、広く高い視座に立って、旧約からの理解と韓国の教会の歴史、霊性をお話しくださるものでした。

おりしも私たちは、コロナウイルスのために訪問先変更をしなければならなくなりましたが、慰安婦像の前立ち、その抗議活動を知る機会を持ちました。今なお心の傷が癒えぬ人がいることを知りました。その中でも、宣教師らが眠る楊花津外人墓地を訪れた時、韓国の孤児の父と呼ばれた曾田嘉伊智を

で一律のやり方を決めたり、神学的権威（そんなものはどこにも認められない時代かもしれない）がこうすべしと大上段に構えては、本当に必要な宣教、御言葉の喜びと平和を分かち合うこと、教えと学びを深めていくこと、一人ひとりに仕えていくこと、癒しととりなしを祈ること、他者のために苦難を負うこと、そうして共に生きていくことの実際は無視されてしまうように思う。（まあ、必要以上の混乱を避けるように教団が判断すべきこともありうるけれど）むしろ、それぞれの地で、牧師と信徒が格闘していることに耳を傾け、祈り支え合う。そ

して、それぞれのあり方や判断を確認したり、その苦しさを支援する。そういう教団、教会でありたいものだ。どのような時にも、キリストはあなたにそばにあって、それぞれ一人ひとりを見捨てず、裁かず、悔い改めと恵みのいのちへと導かれるのだから。

今の時代は複雑だし、本当に多様な可能性がある。それだからこそ、この時にこそ、それぞれの地域にたてられ、遣わされている自分の教会の性格を診断しながら、皆でこれからの自分たちの教会や礼拝のあり方、社会との関係、宣教のあり方を見直してみよう。どうだろう。

だかいち」という日本人を知りました。平和を作り出す働きを担った人がいたことに胸を熱くしました。下準備と同行してくださった朴用和牧師（全州新興高校チャプレン）に感謝したいと思います。

準備と運営に関わってくださった方々に深く感謝いたします。

第54回教職神学セミナーに参加して

築田仁 甲府・諏訪教会牧師



セムナン教会



モクトンピョングアン教会



曾田嘉伊智の墓

日本ルーテル神学校第54回 教職神学セミナー報告

小泉基(函館教会牧師)

2年に1度、ルーテル諸教会の教職を中心に行われてきた教職神学セミナーが今年2月10〜12日に、日本ルーテル神学校を会場に行われました。テーマは「明日の教会のために」わたしたちの教会神学神学教育。JELCからの参加者減少がみられた近年の傾向から一転、今年は本教会事務局の協力もあって按手5年未満の若手教職が多数参加し、全国から50名の参加者が集う賑やかな集いとなりました。

意図されていたのは、神学の現場である教会からの声を聴きつつ、教会と神学教育のめざす方向性について討論を積み重ねること、石居基夫神学校長、ルター研究所の立山忠浩牧師、江口再起牧師、聖公会の西原廉太司祭、大岡山教会の橋爪大三郎さんらによる講演を受けた他、JELCの第7次宣教方策案や4人の牧師による教会形成についても発題を受けました。教会現場の現在地と将来についての葛藤と希望をわかちあうなかで、神学教育に対する期待についても熱い討論がなされました。

最終日に、神学校の宮本新牧師から、神学教育の歴史とビジョンにかかわる感銘深いまとの講演を受け、参加者は再びそれぞれの現場へと派遣されることとなりました。

準備と運営に関わってくださった方々に深く感謝いたします。

第54回教職神学セミナーに参加して

築田仁 甲府・諏訪教会牧師

「明日の教会のために」わたしたちの教会神学神学教育というテーマのもとに、ルーテル教会に於ける宣教とは、教会のあり方とは、そして教会形成をどのように行っていくのか等、講演者の熱い発題に耳を傾けるとともに、教会の本質とその意味について深く考えさせられる機会となりました。教会に委ねられている宣教のみ業の大きさとあり方の多様性を確認しました。

教会がより多くの多元的社会に開かれた存在になることの大切さ、そして、地域で様々な問題を抱える人々と共に宣教を担っていくことが、さらに教会に求められていると改めて学びました。同業者との出会い、再会を果たし、また気持ち新たに宣教のフロンティアに立つていく動機付けが与えられました。

セミナーを主催してくださった日本ルーテル神学校に感謝します。ありがとうございました。

セミナーを主催してくださった日本ルーテル神学校に感謝します。ありがとうございました。

セミナーを主催してくださった日本ルーテル神学校に感謝します。ありがとうございました。

セミナーを主催してくださった日本ルーテル神学校に感謝します。ありがとうございました。

